



高成田 享氏

朝日新聞社 論説委員室論説委員

1971年朝日新聞入社。アメリカ総局経済特派員、テレビ朝日「ニュースステーション」のコメンテーター、アメリカ総局長等を経て2002年から論説委員室論説委員。その他、専修大学や共愛学園前橋国際大学の客員講師等を務める。

対象事業

現地調査:2005年6月

ウズベキスタン

- 地方3空港近代化事業 (1) (2)
- 職業高等教育拡充事業
- 鉄道輸送力増強事業

アゼルバイジャン

- セヴェルナヤ・ガス火力複合発電所建設事業 (1) (2)

地政学的に重要な中央アジア・コーカサスへの戦略的な援助を

ウズベキスタンでは、地方3空港近代化事業、職業高等教育拡充事業、鉄道輸送力増強事業、アゼルバイジャンでは、セヴェルナヤ・ガス火力複合発電所建設事業を視察、評価した。

ウズベキスタンの地方3空港近代化事業はサマルカンド等シルクロード観光の拠点整備、高等教育事業は国の経済的社会的基盤である農業のレベルアップ、鉄道事業は新しい産業分野での外貨獲得と、それぞれ同国の実状に即した援助計画であり、援助のお仕着せではなく、それぞれのニーズを研究している様子が見えがえた。

特に、教育事業は、インフラ整備といったハード面での援助から、人材育成というソフト面での援助という面で、これからのODAのあり方としても注目すべき事業だといえる。日本での教員研修を含め、総じて、うまく機能していると判定できた。今後、JICA等との連携を深め、ヒトとモノの両面からの援助として、ほかの開発途上国にも広げることが提案したい。



「職業高等教育拡充事業」にて教育機材が供与された各高校の農業機械科授業(写真左)および獣医学科教員(写真右)。同教員は日本の農業学校での研修後、実習を中心とした授業を行うようになった。

鉄道事業は、客車の修理工場建設が主体で、地味な援助かもしれないが、旧ソ連圏全体に老朽車両が多く、再利用の需要も大きいことを背景に、着実な成果をあげていることがわかった。

修理前

修理後



「鉄道輸送力増強事業」にて整備された客車。新規客車購入費用は一台につき80万ドル(耐用年数25年)に対し、修理工場での修理費は10万ドル程度(耐用年数15年延長)。

国際基準に適合する地方空港の整備は完成し、離着陸の安全性は高まった。しかし、9・11以降のテロ不安から観光客の増加が期待よりも少なく、増強した空港の能力に見合うだけの利用がなされていないのが残念だ。観光が伸び悩む背景には、同国でテロ事件や騒乱事件が起きていることがあり、空港を活かすには、治安の安定という政治的な要素が重要なことを示している。

アゼルバイジャンのガス火力複合発電所の建設事業は、すでに完成し、2期事業の計画が進んでいる。事業そのものは順調だといえるが、料金の値上げを迫られており、一般家庭向けの料金を無理に引き上げれば、国民の不満が高まるといった政治的なリスク等も抱えていることにも注意していく必要がある。

中央アジア・コーカサスは、地政学的にもエネルギー資源的にも重要な地域であり、この地域に対する援助は、総合的な観点から戦略的に取り組む必要がある。そこで留意しなければならないのは、対象国の政治体制の問題だ。ウズベキスタンにしても、アゼルバイジャンにしても、「自由と民主主義」という物差しで測れば、合格点を出すわけにはいかない部分がある。しかし、完全に合格するまで援助の手を差し伸べないということは、人道的にも戦略的にも、合理性を欠く。となれば、援助が対象国の自由度と民主化度を高める方向につなげる努力を援助機関だけでなく、政府も積極的に進める必要があるだろう。